

平成23年度**第5次鯖江市総合計画推進にかかる施策方針**

～健康福祉部～

第5次鯖江市総合計画の着実な推進を目的として、平成23年5月に策定した施策方針の取組結果について、次のとおり報告します。

平成24年3月

健康福祉部長 藤井 勇二

1 総括

- 1 市民が互いに支えあうとともに、障がい者が地域で安心して暮らせるまちを目指し、「第2次地域福祉計画」と「第3次障がい者計画」を策定しました。また、これらの計画の策定作業においては、市民の意見を計画に反映させるため、地域福祉計画等策定委員会や同委員会障がい者福祉計画専門部会を頻回開催するとともに、アンケート調査、地域福祉座談会、地域福祉意見交換会、障がい者当事者との意見交換会、市区長会連合会や市民生委員児童委員協議会連合会等での説明会など積極的な取り組みを行いました。
- 2 高齢者が元気で活動的な生活をおくることができ、住み慣れた家庭や地域で安心して暮らすことができるよう、平成24年度から平成26年度までを第5期とした「鯖江市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定し、施策目標の設定や介護保険料の算定などを行いました。また、地域の「助け合いネットワーク」づくりを推進し、地域における見守り体制の充実、強化を図り、より一層の介護予防の推進、介護保険サービスの充実に努めました。
- 3 高齢者の一人ひとりが住み慣れた地域で生き生きと輝いて暮らすことができるよう、認知症予防講座、体力の維持・向上のための講座、高齢者の暮らしに役立つ講座等の開設や、地域貢献活動などの場を設け、生きがいづくりの支援に努めました。
- 4 市民が未来に希望を持って、安心して子どもを生み育てることができる「子育てにやさしいまちづくり」の実現に向け、「未来へつなぐ つつじっこ子育てプランⅡ」の着実な実施に努めました。
- 5 市民が心身ともに健康で充実した生活をおくることができるよう、市民の健康課題を的確に把握し、ライフステージに対応した保健サービスの提供に努めました。
また、メタボリックシンドロームなど生活習慣病を予防するため、健康診査やがん検診の受診勧奨・啓発に努めるとともに、健康管理や運動・食に関する健康教室を地区や町内で開催するなど生活習慣の改善や疾病の発生を未然に予防するための支援に努めました。
- 6 丹南地域の2次救急等の急性期医療を担う中核総合病院として、がん、脳卒中、救急、周産期医療、成人病医療体制等の充実、地域住民の安心安全の確保を図るため、平成24年5月の開院を目指し公立丹南病院の整備に努めました。
- 7 健康や安心を支える社会保障制度の充実のため、国民健康保険保険者として保健事業に積極的に取り組むとともに、医療費の適正化を推進し、国民健康保険の経営の安定化に努めました。

2 課題

1 【見守りネットワークの構築】

地域のつながりの希薄化による高齢者等の孤立を防ぎ、日常生活の不安や不便をなくし、安心して暮らせるよう、要支援者情報の把握や、町内単位での見守りや声かけを中心に地域住民による見守りネットワークの構築や体制づくりを促進する必要がある。

2 【地域包括支援センターの機能強化】

現在、地域包括支援センターのブランチとして、高齢者の24時間相談窓口や実態把握等を中心に業務を行っている4箇所の在宅支援センターを地域住民への生活面全体を総合的に支援する機能を持つサブセンターに位置づけ、地域包括支援センターの機能強化を図る必要がある。

3 【健康意識の高揚に向けた取組】

関係機関や団体との連携を図り、健康診査やがん検診の受診、また生活習慣病の予防に向けた取組みなど、健康意識の高揚に向けた取組みが必要である。

4 【国保財政の安定化】

ここ数年、基金を取崩しながらの経営を余儀なくされており、基金も底を突く状況になっている。健全な国保財政を維持するため、適正な国保税の確保に向けた検討が必要である。

<取組項目>		<取組結果>
5	<p>■ 高齢者の生きがいがづくりと地域貢献活動の支援</p> <p>高齢者の豊かな経験や知識、能力を生かし、生きがいがづくりと健康づくり、社会参加、地域の担い手としての役割の確立等を推進し、高齢者の方々の生活を豊かにするとともに安心して健康でいきいきと暮らせるような健康づくり、生きがいがづくりを支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 介護支援サポーター登録数 80人 ◆ 老人クラブ等に対する出前講座の開催数、参加者数 70回 1,400人 ◆ 高齢者福祉バス(学びバス)の運行回数、参加者数 25回 300人 ◆ 高齢者福祉バス(ふれあいバス)の運行回数、参加者数 40回 600人 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>高齢者の豊かな経験や知識、能力を生かし、生きがいがづくりと健康づくり、社会参加、地域の担い手としての役割の確立等を推進し、高齢者の方々の生活を豊かにするとともに安心して健康でいきいきと暮らせるような健康づくり、生きがいがづくりを支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 介護支援サポーター登録数 140人 ◆ 老人クラブ等に対する出前講座の開催数、参加者数 60回 1,743人 ◆ 高齢者福祉バス(学びバス)の運行回数、参加者数 27回 367人 ◆ 高齢者福祉バス(ふれあいバス)の運行回数、参加者数 36回 938人
6	<p>■ 鯖江市高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画の策定</p> <p>急速な高齢化の進展に対応するため、介護保険運営協議会を開催し、アンケートによる高齢者実態調査、給付分析などの検証から、介護予防事業の評価など第4期計画全体の評価・検証を実施し諸課題を把握するとともに、施策目標の設定、介護保険料の算定などを行い、平成24年度から平成26年度までを第5期とした「鯖江市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 介護保険運営協議会の開催数、参加者数 6回 50人 ◆ 高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画の策定 平成24年3月までに 	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>急速な高齢化の進展に対応するため、介護保険運営協議会を開催し、アンケートによる高齢者実態調査、給付分析などの検証から、介護予防事業の評価など第4期計画全体の評価・検証を実施し諸課題を把握するとともに、施策目標の設定、介護保険料の算定などを行い、平成24年度から平成26年度までを第5期とした「鯖江市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」を策定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 介護保険運営協議会の開催数、参加者数 6回 60人 ◆ 高齢者福祉計画・第5期介護保険事業計画の策定 平成24年3月
7	<p>■ 保育サービスの充実</p> <p>安心して子どもを預けられるよう早朝保育、延長保育、低年齢児保育、一時保育など保育サービスの充実を図ります。また、多様化するニーズを見極めながら公立保育所の民営化を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 延長保育実施の保育所数 14園 ◆ 公立保育所民営化計画に基づく民営化の推進選定委員会の開催、決定 	<p>【成果等】 目標を概ね達成しました。</p> <p>早朝保育、延長保育、低年齢児保育、一時保育など保育サービスの充実をしました。また、公立保育所民営化を推進するため、こども子育て新システムの国の動向を注視するとともに市内の民間保育園との協議を慎重に進めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 延長保育実施の保育所数 14園 ◆ 公立保育所民営化計画に基づく民営化の推進

<取組項目>		<取組結果>	
8	<p>■ 子育て支援の充実 子育て中の親子が参加する子育てサークル、地区子育てネットワーク事業、ふれあい交流事業の内容充実、および拡大を図ります。また、子育て支援に携わる人材育成、次世代育成に取り組むため、子育てサポーター養成講座の実施、COSAPO(子育てサポーターの会)の活動の充実を図ります。</p> <p>◆子育てサポーター登録数 135人 ◆子育てサークルなど親子での集い参加者数 18,000人 ◆親子ふれあい交流での参加者数 700人</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>子育て支援に携わる人材育成、次世代育成に取り組むため、子育てサポーター養成講座を実施するとともに、COSAPO(子育てサポーターの会)の活動の充実を図りました。また、子育て中の親子が参加する子育てサークル、地区子育てネットワーク事業、ふれあい交流事業の内容充実、拡大を図りました。</p> <p>◆子育てサポーター登録数 147人 ◆子育てサークルなど親子での集い参加者数 18,200人 ◆親子ふれあい交流での参加者数 700人(見込み)</p>	
9	<p>■ 市民の主体的な健康づくりの推進 健康づくり推進員と協働して、地域における運動習慣の定着や食習慣、生活習慣の改善に取り組むための講座を開催します。</p> <p>◆地区健康教室開催数、参加者数 120回 2,400人</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>運動習慣の定着、食習慣、生活習慣の改善や各種健診の受診勧奨などを内容とする地区健康教室(出前健康講座を含む)を、健康づくり推進員と協働して開催しました。</p> <p>◆地区健康教室開催数、参加者数 115回 2,394人</p>	
10	<p>■ こんにちは赤ちゃん事業の展開 県内トップの出生率(平成21年10月1日現在)を維持できるよう、育児支援に努めます。特に、保健師、助産師、健康づくり推進員が連携して、生後4ヵ月までの乳児をもつ家庭を訪問し、母子の心身の状況や養育環境等を把握するとともに、様々な不安や悩みの相談、子育てに関する情報提供等を行います。</p> <p>◆家庭訪問率 100%</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>生後4ヵ月に達する乳児のいる家庭に、保健師、助産師もしくは健康づくり推進員が訪問し、母子の心身の状況や養育環境等を把握するとともに、育児への不安や悩みの相談を受けたり、子育てに関する情報提供などに努めました。</p> <p>◆家庭訪問率 97.0%</p>	
11	<p>■ 健康診査事業の推進 健康のまち鯖江にふさわしい健診体制を整え、20歳から39歳までと75歳以上の方を対象に健康診査を、国民健康保険加入者で40歳から74歳までの方に特定健康診査・特定保健指導を実施します。また、65歳以上の方には、生活機能評価を併せて実施し、特定高齢者の把握に努めます。</p> <p>◆特定健康診査実施率 50% ◆特定保健指導実施率 45%</p>	<p>【成果等】 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>健診受診者への心電図検査項目の追加や市外での個別健診を可能とするなど受診しやすい環境整備に努めるとともに、健康出前講座や街頭での啓発活動、未受診者に対する受診勧奨や減量教室の開催など受診率向上に努めました。</p> <p>また、直営による結果説明会等の実施など健診から保健指導まで一貫した指導体制を取り入れ、訪問による受診勧奨と合わせて特定保健指導の実施に努めました。</p> <p>◆特定健康診査実施率 28.3% ◆特定保健指導実施率 22.2%</p>	

<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <取組項目> <取組結果> </div>		
12	<p>■ がん検診事業の推進 がんの早期発見、早期治療に向け、がん検診の健康診査との同時受診や指定医療機関におけるがん検診の導入を行うなど受診しやすい環境整備に努めます。また、がんに対する知識の普及やがんに関する情報提供に努めます。</p> <p>◆ 胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん・子宮がんの平均検診率 22.5%</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>子宮がん・乳がん・大腸がんの節目年齢の無料化やがん検診と健康診査を同時に受診できるようにするなど、受診しやすい環境整備に努めました。 また、未受診者に対するアンケート調査の実施、電話による勧奨や職域出前健診を実施し、受診率向上に努めました。</p> <p>◆ 胃がん・肺がん・大腸がん・乳がん・子宮がんの平均検診率 26.3%</p>
13	<p>■ 公立丹南病院の整備 丹南地域の公的中核病院として整備を推進し、急性期医療を担う総合病院として医療体制の充実、地域住民の安心安全の確保に努めます。</p> <p>◆ 公立丹南病院施設の整備 H24年3月末進捗率 97% (鉄筋コンクリート造7階建 15,070.34㎡)</p> <p>◆ 医療機器の整備 MRI3テスラ1台、64列CT1台、血管撮影装置1台、X線撮影装置3台、結石破砕装置1台、超音波診断装置、人工透析30床等の整備</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>新病院部分の工事進捗率は年度末までに97%を達成する見込みで、平成24年3月に引き渡しを受け、MRI、CT等の最新の医療機器を整備した後、平成24年5月に開院予定で、丹南地区の公的中核病院として医療体制の充実、地域住民の安心安全の確保に努めました。新病院開院後は既存施設の取り壊しと改修および外構整備を行い、平成24年9月に事業完了を予定しています。</p> <p>◆ 公立丹南病院施設の整備 H24年3月末進捗率 97% (鉄筋コンクリート造7階建 15,070.34㎡)</p> <p>◆ 医療機器の整備 MRI3テスラ1台、64列CT1台、血管撮影装置1台、X線撮装置3台、結石破砕装置1台、超音波診断装置、人工透析30床等の整備</p>
14	<p>■ 人間ドック検査料補助事業の推進 保健事業の一環として、被保険者の疾病の早期発見、早期治療および健康管理に資するため人間ドック検査料補助事業を実施し、被保険者の健康づくりの促進と医療費の抑制を図ります。</p> <p>◆ 受診者 450人 ◆ 人間ドック受診者に占める60歳未満男性の受診率 22%</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>被保険者の疾病の早期発見、早期治療および健康管理に資するため人間ドック検査料補助事業を実施し、450名を募集、431名の受診者がありました。特定健診を受診したと見做す人間ドックとしているため、受診結果を基に特定保健指導や医療機関への受診勧奨を図り、被保険者の健康づくりの促進と医療費の抑制を図りました。</p> <p>◆ 受診者 431人 ◆ 人間ドック受診者に占める60歳未満男性の受診率 21.1%</p>
15	<p>■ ジェネリック医薬品普及促進差額通知事業の推進 後発医薬品(ジェネリック医薬品)への切替により、被保険者の自己負担金を減らすとともに、国保財政の健全化を図ることが期待されることから、積極的な普及促進に努めます。</p> <p>◆ 差額通知 3回 ◆ 新規国保加入者への「ジェネリック医薬品希望カード」の配布</p>	<p>【成果等】 目標を達成しました。</p> <p>後発医薬品(ジェネリック医薬品)への切替により、被保険者の自己負担金の軽減、保険者の負担金を軽減し国保財政の健全化につなげるため、差額通知を3回(7・10・3月)行い積極的な普及促進に努めました。また差額通知送付対象者の後発医薬品処方比率も通知発送前は平均20.2%だったが、通知発送後は平均23.3%まで伸びず事ができました。新規国保加入者へは窓口での手続時に「ジェネリック医薬品希望カード」の配布を行いました。</p> <p>◆ 差額通知 3回 ◆ 新規国保加入者への「ジェネリック医薬品希望カード」の配布</p>